

学校法人岡辻学園山手幼稚園

入園等に関するQ&A

🌸すべては”楽しい”のキモチから🌸
子どもの興味の種類を育てます



学校法人 岡辻学園 山手幼稚園

〒564-0073 吹田市山手町1丁目15番地 TEL 06-6387-3001

<登園時間・保育料・預かり保育等について>

(Q1) クラス編成について

登降園時間は下記のとおりです。

登園時間…1班 8時30分～8時50分 2班 9時10分～9時30分

降園時間…1班 13時50分～14時10分 2班 14時30分～14時50分

<バス利用の方> ご利用するバスによって1班、2班が決まりますので、ご了承ください。

<自由登園の方> 1班、2班は、園で決定させていただきます。

また、やむを得ない理由があると園長が判断し、特別預かり保育の申請書類をご提出いただいた方については、1班保育終了から14時30分まで、2班8時30分から保育開始まで預かり保育を利用することが可能です。

預かり保育を利用する場合は、①ICカードの購入②利用前に「連絡アプリ」から預かり保育利用申し込みが必要となります。

(Q2) 預かり保育料の無償化について

3～5歳児クラスで、市から保育の必要性があると認定を受けた子ども（新2号認定）が山手幼稚園の預かり保育を利用した場合、月額上限450円×利用日数まで利用給付があります。

利用給付の対象となる費用は、山手幼稚園の預かり保育を利用実績に伴う「預かり保育費」となっていますので、「預かり保育給食費」及び、「預かり保育おやつ代」は利用給付の対象外の費用（実費負担額）となります。

なお、保育の必要性の認定基準や必要な手続きについては、在住の市町村にお問い合わせください。

ただし、保育の必要性があると認定を受けた場合であっても、山手幼稚園の預かり保育の状況（定員や行事その他の状況）によっては、預かり保育を利用できないこともありますのでご注意ください。

お住まいの市により給付の方法が異なる場合がありますが、原則、預かり保育は利用した料金を全額幼稚園に納付していただき、後日、お住まいの市町村から保護者様へ利用給付額が還付されます。

(Q3) 給食費について

給食費は、該当月の保育日数により給食回数は変動いたしますが、年間の食材料費を 11 ヶ月の均等割りにし、8月を除き、毎月 4,300 円をお支払していただきます。

なお、欠席、学級閉鎖、臨時休園等の場合でも返金いたしませんのであらかじめご了承ください。また、給食費については、食材調達コストの変化により、在園期間中や年度途中であっても変更する場合があります。

(Q4) 給食費（食材料費）の副食費の負担減免について（詳細はお住いの市にご確認ください）

吹田市では、「年収 360 万円未満相当世帯の子供や第 3 子以降の子供」については、給食費の副食費が減免されます。減免に該当するお子様については、保護者様からお住いの市に所定の手続きをしていただくことになります。

なお、山手幼稚園の給食費は、主食費月額 860 円、副食費月額 3,440 円となっています。

(Q5) 月の途中の入園、退園の場合の費用はどうなりますか？

月の途中の入園、退園の場合も特定負担額 15,000 円～10,000 円（歳児別）、給食費 4,300 円、バス費 4,800 円となります。

(Q6) 諸経費について

諸経費（月額）の取扱については、以下のとおりです。※年額を月割りにして納付していただきます。

① 「特定負担額」

満 3 歳児 15,000 円、3 歳児 12,000 円、4 歳児、5 歳児 10,000 円

※長期欠席の場合も全額納付となります。減免はありません。

② 「バス代」4,800 円及び「給食代」4,300 円（8 月を除く）

※長期欠席の場合該当月の 1 日から末日まで欠席した場合は請求しません。該当月に 1 日でも出席した場合は、バス利用の有無、給食喫食の有無にかかわらず上記金額を請求いたします。

③ 「預かり保育料」、「行事費等」、「用品代」などは実費となります。

※臨時休園、学級閉鎖（台風、地震、インフルエンザ、コロナウイルス感染症等）であっても全額納付となります。

（Q7）入園後の長時間枠への変更について

入園後に仕事をはじめ、居住する市町村から新 2 号の認定を受けたが、長時間保育枠で預かり保育を利用することは出来ますか？

令和 8 年度は年少・年中 50 名程度、年長 25 名程度の長時間保育枠を設けています。退園等により欠員が出た場合、欠員あと追加募集をいたします。

ただし、産前（6 週間）産後（8 週間）の期間については、一時預かり優先枠としてお預かりが可能です。

（Q8）預かり保育での午睡はありますか？

山手幼稚園の預かり保育では、お子さまの心身の発達に配慮し、「からだ休め」の時間を設けています。年少児は原則全員、年中・年長児についてはご希望に応じて実施しています。また、夏休みなど体力の消耗が大きくなる時期や、日中の活動が活発だった日には、年中・年長のお子さまにも「からだ休め」の時間を設ける場合があります。

この「からだ休め」は、いわゆる「お昼寝」とは異なり、横になりながら静かに体を休める時間です。無理に眠らせるのではなく、自然な形で身体と心の緊張を緩めることを目的としています。

特に 3 歳児はまだ体力が十分についていないため、夕方まで元気に過ごすためにも、この静かな時間がとても大切です。また、夏場などは体力の消耗が大きくなりやすいため、年中・年長児にとっても必要に応じて体を休めることが、健やかな成長につながります。

夕方は、子どもの体温が 1 日のうちで最も高くなる時間帯です。このタイミングでしっかりと体を動かすことにより、自律神経の働きが高まり、体温調節機能や成長ホルモンの分泌が促され、心身の安定と健やかな発達を助けてくれるといわれています。

「からだ休め」の時間は、そうした夕方の活動を充実させるための“前準備”としても、とても重要なひとときです。お子さまがその日を元気に、そして心地よく過ごすために、私たちは一人ひとりの状態を見ながら丁寧に対応してまいります。

（Q9）預かり保育を利用するときは別途用意する物が必要ですか？

「からだ休め」のためにタオルケット 2 枚のご用意が必要です。また、長時間の預かりとなるため十分な量のお茶を入れることのできる水筒や、下着や体操着などの着替えのご用意をお願いしています。

＜送迎に関すること＞

（Q1）停留所を新たに設置することは可能ですか？

現在設置しております既存の停留所をご利用いただきますようお願い申し上げます。安全面や運行の円滑さを考慮し、バスの停留所は事前にルート・時間・地域の状況等を踏まえて慎重に設定しております。

（Q2）停留所の場所の移動はできますか？

通園バスの停留所につきましては、各住宅街やマンションの立地、乗降時の安全性、乗車時間のバランスなどを十分に考慮したうえで設定しております。

また、停留所の設置には、ご近所の方々のご理解・ご協力が必要であり、周辺住民の皆様からの苦情が出ないことも大切な条件のひとつとなっております。

こうしたさまざまな条件を満たす場所は限られているため、停留所の移動や新設は簡単にはお受けすることができかねます。

（Q3）年度途中で先発、後発が入れ替わったり、時間の変更はありますか？

本園では、バスの運行にあたり「先発」「後発」の区分に基づいてクラス編成を行っております。そのため、4月に決定した乗降車時間やコースは、原則として1年間を通じて変更なくご利用いただくこととなり、翌年度以降も同様の時間帯での登降園となります。

ただし、バス停ごとの利用人数の増減や、安全面・運行効率の見直しが必要と判断される場合には、年度の変わり目に一部のバス停やルート、乗降時間を調整させていただくことがあります。その際は、事前にご連絡・ご説明を差し上げたうえで、必要な変更をお願いすることになります。

（Q4）仕事の都合で乗車場所と降車場所を別の停留所にすることはできますか？

通園バスの乗降につきましては、原則として、乗車・降車ともに同一の停留所をご利用いただくようお願いしております。これは、園でのクラス編成や運行管理の安全確保のために必要な対応となります。

ただし、バス酔いなどの体調面でやむを得ない事情がある場合に限り、クラス編成や運行に支障のない範囲で、乗車場所と降車場所を別の停留所とすることを個別に認める場合がございます。その場合も、乗降場所は固定とさせていただき、日によって乗降場所を変更することはできません。

いずれの対応も、お子さまの安全と安心、園全体の円滑な運営のためのものです。

<保育に関すること>

(Q1) 年少組のクラス編成及び保育室内環境は？

山手幼稚園では、年少組（3 歳児）のクラスは 1 クラスおよそ 25 名程度で編成しています。保育は 1 人担任制ですが、お子さまの様子や活動内容に応じて、補助教員を必要に応じて配置し、子どもたち一人ひとりの育ちにしっかりと目を向けられるような体制を整えています。

幼児期は、初めての集団生活に戸惑ったり、不安を抱いたりすることもある大切な時期です。そんな時期だからこそ、子どもたちが安心して過ごせるように、気持ちに丁寧に寄り添いながら日々の保育を行っています。少しずつ自分のペースで園生活に慣れ、楽しいと思えることが一つずつ増えていくように、一人ひとりの姿に合わせたかかわりを大切にしています。

保育室の環境にも、子どもたちが心地よく過ごせるよう配慮しています。保育室は全室、冷暖房完備で、一年を通して快適に過ごせる環境です。また、保育室の広さは 64 m²（国の基準は 53 m²）と、ゆとりある空間設計となっており、子どもたちがのびのびと遊び、過ごすことができます。お子さまにとっても、ご家庭にとっても、初めての園生活にはご不安もあるかと思いますが、私たち職員が一人ひとりの気持ちや成長に寄り添いながら、毎日を丁寧に支えてまいります。

(Q2) 文字への興味関心は持たせてもらえますか？

～小学校につながる「学びの芽」を育むあそび～

本園では、幼児期にふさわしい“遊び”を通して、子どもたちの学びの土台を丁寧に育んでいます。幼児期は、知識を一方向的に教え込むのではなく、「やってみたい」「なんだろう？」という好奇心や意欲を育てることが大切だと私たちは考えています。

その一環として、遊びの中で文字や数字への興味・関心を自然に持てるような環境や関わりを大切にしています。年中児からは、鉛筆を使って書いてみる遊びも始まりますが、これは“書く力”そのものを育てるよりも、「書いてみたい」という気持ちを大切にするものです。正しい書き方を厳しく教え込むのではなく、楽しみながら文字や表現に親しむことを目的としています。

また、年長児になると、週 1 回の ECC 英会話あそびが始まります。英語を習得させることが目的ではなく、異なる言葉や文化にふれ、音や表現の違いを楽しむ体験を通して、子どもたちの世界を広げることを大切にしています。

園庭では、四季折々の草花や虫、小動物とのふれあいを楽しんでいます。観察園では野菜や植物を育てる中で、命のつながりや成長への気づき、五感を使って学ぶ経験が日常にたくさんあります。これらの体験はすべて、子どもたちが「自分で気づく」「考える」「工夫する」という力を遊びの中で育むことにつながっています。幼児期に積み重ねた豊かな経験は、小学校以降の学びにおいて、知識を意味づけ、理解し、活用していくための基礎として確かな力となります。子どもたちが「学びって楽しい」「知って面白い」と感じられるよう、私たちはこれからも、遊びを中心とした学びの環境を大切にまいります。

(Q3) おむつがまだ外れていませんが、大丈夫でしょうか？

おむつ・トイレトレーニングに限らず、食事や衣服の着脱など生活の自立は心の安定につながります。

園で安心してすごせるために一人でトイレが出来るようになっていくに越したことはありませんし、コントロールができるとそれだけ集団での遊びや学びの機会が増えます。

ただし、そこへ至るまではいくつかステップがあり、急に出来るようになるわけでもありません。

入園時に出来て無くてかまいませんが、保護者様のご協力は欠かせません。

トイレトレーニングのステップとご家庭でできるサポートは下記をご参照ください。

私たちはお子様の様子を一人ひとりのペースを大切にしながら、園とご家庭で連携し、少しずつトイレの習慣がつくように丁寧に関わっていけたらと考えています。

不安なことや困ったことがあれば、どうぞいつでもご相談ください。

●トイレトレーニングのステップとヒント

トイレが出来るようになるためには

【出るまでの間隔が長くなる。】【出たことに気づき、気持ち悪さを感じる】【トイレに座ってみる】【出そうであることに気づき周囲の大人に伝える。】と言った心理的・身体的ないろいろな発達の側面が絡んでいます。

これらは脳の中でも【前頭前野】と言う「考える」「行動を選ぶ」「感情をコントロールする」などの人の“心の育ち”に関わる部位との発達と関係しています。

【前頭前野】は乳幼児期にじっくりと育っていくため、排尿の自立は「年齢」では判断できない個人差があります。

●ご家庭で出来るサポートのヒント

①子どもの【気づき】を手助けしましょう。

オムツをよく確認し、間隔が長くなってきたら、その間隔に合わせて「そろそろおしっこかな？」「おなかいっぱいになってきたね」など、体の変化に気づけるような声かけをしてあげましょう。

また、昨今の紙おむつは高性能なため本人も大人も気づきにくく、タイミングがつかみにくいので、出来る範囲で日中はトレーニングパンツなどで過ごしましょう。

②急がず、責めず、安心感を

失敗してしまっても「教えてくれてくれてありがとう」「次がんばろうね」と、あたたかく寄り添いましょう。焦りや叱責は子どもにとって大きな不安やストレスにつながります。

③「できた！」をたくさん褒めて

うまくいった時はもちろん、「トイレに行こうと思ったんだね」「教えてくれてママ・パパうれしいよ」と“気持ち”や“行動”に注目してほめることで自信や意欲につなげましょう。

④トイレを楽しみ空間に

お気に入りの絵をトイレに貼ったり、「座ることが出来た」「トイレでできた」「尿意を伝えることが出来た」時など成功した時に貼るシール表を使ったりして、「トイレって楽しい」「いってみようかな」と思える工夫も効果的です。

(Q4) 親から離れたことがないのですが、幼稚園に通えるようになるのでしょうか？

「はじめての離れ」も大切な一歩です。安心できる関係から、少しずつ世界が広がっていきます。「親から離れたことがなくて、ちゃんと幼稚園に通えるでしょうか…」そんな不安なお気持ちは、多くの保護者の方が抱かれるものです。

これまでお子さまにとって、日中ずっと一緒に過ごしていたお母さんやお父さんの存在は、何よりも安心できる居場所だったことでしょう。幼稚園に入園するということは、その「安心の居場所」が、“おうち”から“幼稚園”へとゆっくり移っていくプロセスでもあります。

もちろん、新しい場所に不安を感じたり、お母さんやお父さんと離れることを嫌がって泣いてしまうのは、ごく自然なことです。「この人といれば安心」という愛着の関係が築けている証拠でもあります。

幼稚園では、その安心を少しずつ「先生」へ、そして「お友だち」へと広げていけるように、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、丁寧に関わってまいります。

はじめは不安や涙があっても、「ここにも私をわかってくれる人がいる」「一緒に笑ってくれるお友だちがいる」と子どもが感じることで、次第に新しい居場所への信頼や心の安定につながっていきます。やがて、お昼の時間の居場所が「お母さんのひざの上」から、「先生と過ごす保育室」へ、そして「お友だちと遊ぶ園庭」へと広がっていきます。これは心の自立に向かう大切な一歩です。

ご家庭では、どうぞ毎朝お子さまに元気に「いってらっしゃい！」と笑顔で送り出してあげてください。たとえ涙があっても、おうちの方の安心した表情や前向きな声かけは、子どもにとって「きっと大丈夫」という気持ちを育てる大きな支えになります。

そして、やがて必ず、お子さま自身の口から笑顔で「いってきます！」と言える日がやってきます。

その日は、お子さまの中で幼稚園が「安心できる居場所」になった証です。

私たちは、その日が訪れるまで、そしてその先も、子どもたち一人ひとりの歩みに寄り添い、幼稚園という新しい居場所で、温かなつながりを育ててまいります。

(Q5) 偏食が多いのですが大丈夫でしょうか？

「食べること」は育ちの中心 ～山手幼稚園の給食と食育について～

山手幼稚園では、子どもたちの健やかな成長を支える大切な柱のひとつとして、毎日の給食と食育活動に力を入れています。子どもにとって「食べること」は、単なる栄養補給ではなく、心と体の育ち、そして社会性の発達に深くつながっています。本園では毎日、給食を実施しており、栄養バランスや子どもたちの嗜好・残食の状況をふまえながら、管理栄養士、食育インストラクター、教諭が毎月「給食会議」を開催しています。そこで得られた情報をもとに、子どもたちの発達や食への関心に合わせたメニューやかかわり方を検討し、継続的に改善を図っています。入園当初は、おうちとは違う環境やメニューに戸惑い、食が進まないこともあります。それも自然なことです。一人ひとりのペースに合わせて、無理なく、安心して給食を楽しめるよう、丁寧にサポートしていきます。

●給食のねらいと保育的な意味

給食や食育の活動には、次のようなねらいがあります：

- ・みんなで一緒に同じ食べ物を食べることで、楽しさや安心感を共有し、偏食を減らす
- ・野菜を育てて収穫し、その恵みに感謝する体験を通して、食への感謝と命の大切さを感じる
- ・食事のマナーや習慣（例：お箸の持ち方、座って食べる姿勢など）を、家庭と連携しながら育てていく

「食べること」は、単に“できる・できない”ではなく、「一緒に食べる」「ちょっとがんばってみる」「誰かにほめられる」など、人との関わりの中で育つ経験でもあります。

●観察園での食育体験

園内には、季節の野菜や草花を育てる大きな農園（観察園）があります。子どもたちは、自分の手で種をまき、苗を植え、水をあげて、大切に育てていきます。そして収穫した野菜は、食育担当職員（食育インストラクター）と一緒に調理したり、給食の材料としていただいたりします。「自分で育てた野菜」だからこそ、「食べてみたい！」という気持ちが自然と芽生えます。苦手だったお野菜も、友だちと一緒に調理し、食卓を囲むことで「おいしいね！」「がんばって食べてみたよ！」という喜びに変わる姿がたくさん見られます。あたたかい雰囲気の中で、食事の時間が“楽しい育ちの時間”になっていきます。

●一人ひとりのペースで「できた！」を育てる

苦手な食べ物があるお子さまには、最初から量を少なく調整し、「全部食べられた！」という達成感を味わえるような工夫も行っています。食べられたことへの喜びや周りからの励ましは、「次もがんばってみよう」という意欲につながっていきます。

●ご家庭との連携を大切にしています

食育は、園だけで完結するものではありません。ご家庭と連携しながら、「食事って楽しいね」「がんばったらできるかも」と感じられる心の土台を育てていきたいと考えています。入園までに、おうちでも「一緒に食べる」「食事の楽しさを味わう」ことを意識してみてください。何かご不安なことやアレルギー等のご相談があれば、いつでも遠慮なくお知らせください。

私たちと一緒に、お子さまの“食べる力”と“生きる力”を大切に育ててまいりましょう。

（Ｑ６）お子様に対し園や保護者が特別な支援が必要と考えられる場合は？

お子さまの育ちを支えるために～特別な支援が必要と考えられる場合のお願いとご相談について～

山手幼稚園では、お子さま一人ひとりの発達や特性に応じた保育を大切にしています。幼児期は、育ち方に個人差が大きく、どの子にも「その子らしい育ち方」があると考えています。そのうえで、園生活の中で「少し専門的な視点からの支援が必要かもしれない」と感じられる場合には、お子さまがより安心して、健やかに毎日を過ごせるような環境づくりのため、保護者の方と連携しながら支援の方法を一緒に考えてまいります。

●ご入園前のご相談について

現在、お子さまが以下のような状況にある場合は、ご入園のお申し込み前に必ずご相談くださいますようお願いいたします。

- * 親子療育教室等の支援機関をご利用中の場合
- * 言葉の発達や対人関係、感覚の過敏さなどに心配がある場合
- * 医療・福祉などの専門機関で相談・支援を受けている場合 など

事前に情報を共有していただくことで、お子さまにとってより安心できるスタートが切れるよう、環境や関わり方を事前に整えることが可能になります。

●在園中に特別な支援が必要と判断された場合

入園後、園での生活を通して、お子さまの様子に応じて「特別な配慮や支援が必要である」と園が判断する場合があります。このようなときは、保護者の皆さまと丁寧に情報を共有し、お子さまにとって最善の保育環境を一緒に考えていくことを大切にしています。決して否定的な意味ではなく、“より良く育つための最善の環境”を整えるためのご相談であることをご理解いただけますと幸いです。

●ご家庭との連携を大切に

お子さまの育ちを支えるうえで、ご家庭との連携は欠かせません。気になることや、心配なことがありましたら、どうぞ遠慮なくご相談ください。保護者の方と一緒に、お子さまの「今」と「これから」に向き合い、最善の支援をしていくことが、私たちの大切な役割です。入園前の段階から、保護者の皆さまと十分に連携をとりながら、一人ひとりに合った保育を丁寧に進めてまいります。

<その他>

（Ｑ１）転勤が決まり、入園辞退で購入した用品を返品することはできますか？

入園手続き後にご家庭のご事情（転勤など）により、やむを得ず入園を辞退される場合には、園までご連絡ください。用品は、未使用・未開封の状態であれば、返品をお受けすることが可能です。

なお、開封済みまたはご使用になった用品につきましては、衛生面および管理上、返品をお受けできません。